

泉支部長 副 島 江理子 (S56 年卒)

「泉湧く、豊かな 『泉区』、子どもたちの 成長を願って」

泉区は、平成28年度に区制30周年を迎えました。30周年の記念イベントがたくさん行われ、「いず魅力」のキャッチフレーズのもと、泉区のこれまでの歩みや泉区のよさが、改めて発信され、認識された年でした。

また、泉区小中学校PTA連絡協議会も同時に30周年を迎えて、さまざまな催しが行われました。私たち学校もこのような機会にお互いが顔を合わせる事が多く、例年以上の結束を感じた一年です。

泉区は、未だに自然豊かな地区が多く、富士山がきれいに望める場所もたくさんあります。また、昔ながらの営みを感じさせる街の雰囲気が残っていて、どんな人でも「ふるさと」を感じるところがまさに「いず魅力」と言えます。相鉄いずみ野線沿線の(再)開発もこれからなので、学校を取り巻く環境も落ち着いています。

学校数は小学校16校、中学校8校です。どの地域も高齢化の波は押し寄せてきているので、子どもたちの数は減少傾向にあり、学校でも学級減になっている学校が多いです。新しく住宅ができ、子どもの数が増えている学校はごく一部しかありません。

そのようなことから会員数は(特に新会員)はそんなに増えず、泉区としての活動も特別には行っておりません。でも、友松会会員の管理職の皆様が各学校で積極的に声をかけてくださり、会費徴収に尽力をしています。

また、友松会のつながりで何十年ぶりの再会をすることもあり、やっぱり「友松会」の集まりは大切だと感じます。

自分事ですが、近くにいながら卒業以来足が向かなかった国大常盤台キャンパスに、30年以上の年月を経て行く機会がありました。自分が学んだ校舎が健在だったことに感動したのですが、皆さんのお話からさんざん聞かされていた「当時は苗木だった並木が今では鬱蒼としている」様子に、年月の重みを感じて胸がいっぱいになってしまいました。

今年度の泉区友松会会員数は、現職会員が87名、OB会員が47名です。

OB会員の中には、「もう連絡は結構です。」というお声をいただくこともあります。また、若い会員が横浜の職員をやめてしまうことでOB会員になっていることもあり、寂しさを感じます。でも、苗木が大木に育ち、当時だたっぴろいと感じていたキャンパスがしっとりと落ち着いている様子を思い出し、やはり「友松会」の絆を連綿とつなげていくことが大切なんだなと実感しております。

本校に、国大の2年生が授業の一環として来ています。「自分も同窓です。」と紹介することに嬉しさを感じています。一人でも多くの学生が教員となり、「友松会」が続いていくことを願い、泉区の活動も地道に行っていきたいと思います。